

## 2024年度第4回支部集会【関西支部】 開催報告

主催 : 公益社団法人日本語教育学会  
開催日 : 2025年3月15日(土)10:00-16:50  
場所 : 追手門学院大学・茨木総持寺キャンパス  
参加者 : 82名(会員59名、一般23名)

2024年度第4回支部集会【関西支部】を行いました。コロナ禍以降久しぶりの対面開催ということで日本語教育・日本語学習支援に関わる関係者が日本全国から集まり、活発な議論が行われました。対面ならではの直接的な交流が可能となり、情報共有やネットワーキングの機会としても有意義な集まりとなりました。

口頭発表は、3会場に分かれて計7件行われました。研究テーマは、非漢字圏日本語学習者の漢字の書き誤り、ベトナム語母語話者の漢越語の意味把握、LINEチャットにおける言語スタイルのシフト、日本語教師のキャリア支援、日本語学習者の発話の流暢さの発達、外国にルーツを持つ子どもへの音声指導、地域日本語教室の取り組みなど、多岐にわたりました。各会場とも質疑応答の時間にも活発なやりとりが続き、参加者の高い関心がうかがえました。研究内容についての質問や、実践現場での課題に関する意見交換など、実りある時間となりました。

午後のポスター発表では、7件の発表がありました。発表テーマとしては、日本語教師教育者の専門性開発、日本語学習者の聴解ストラテジー、地域日本語教室に関わる行政職員の意識など、幅広い分野が取り上げられました。ポスター発表ならではの双方向のやりとりが行われ、研究の発展につながる貴重な機会となりました。

パネルディスカッションは、「母校の取り組みと課題」をテーマとして、大阪府の母校（日本語指導が必要な生徒を受け入れる高校）の現場での実践や課題について意見が交わされました。実際に母校で現場に立っていらっしゃる3名のパネリストの先生方の熱いお話に、参加者も聞き入っていました。また質問も多く出て、先生方がご自身で希望されて母校で教育に携わられてきたことや過去に起こった事例など詳しくお話を聞かせていただきました。歴史的背景や社会状況に大きく影響を受ける外国ルーツの児童・生徒の日本語支援。パネリストの先生の、母校は日本社会の縮図というお言葉が印象的でした。

開催後のアンケートによると、今回初めて関西支部の催しに参加したという方が多くいました。口頭発表、ポスター発表、パネルセッションとも、概ね好評を得たものの、予稿集のダウンロード方法が分かりにくかったという意見を複数いただきました。非会員の参加者がいることも考慮し、予稿集のダウンロード方法の案内をもう少し丁寧にした方がよいと感じました。今後も、日本語学校関係者や地域の学習支援者など、より幅広い層の方々にご参加いただけるよう、テーマの選定や運営方法などを工夫していきたいと考えております。

発表者の皆様、参加者の皆様、ならびに支部集会開催にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

(報告者:支部活動委員 藪崎淳子・内田さつき)